No. 2467

山頂のパノラマと草原のお花畑
平標山・仙ノ倉山

実施日	2010年6月25日(金)～26日(土)
天　候	曇り・小雨
リーダー	涌井　良明
参加者	齋恵美子、馬場清士、福島政幸、涌井良明、鈴木政三、渋谷賢寿、渋谷京子、中村友子、伊東久雄、石原勝正、古川美恵子　計 11 名
費　用	交通費 上野⇒越後湯沢 3,260 円 越後湯沢⇒東京 5,980 円 宿泊費 6,500 円　計 15,740 円
タイム	25 日上野駅(10:30)越後湯沢駅(14:17)湯沢ｽｷｰﾊｳｽ　泊 26 日宿舎発(7:12)元橋登山口(7:35~7:40)平元新道入口(8:44~8:53)平標山の家(10:04~10:33)平標山頂(11:30～12:00 昼食)松手山(13:05~13:15)元橋駐車場(14:35)湯沢ｽｷｰﾊｳｽ(15:00 ～ 16:25)越後湯沢駅(16:30~17:08)
データ	積算距離 9.91km 総上昇量 1,016m 活動時間 6 時間 58 分 全体平均速度 1.42m/h

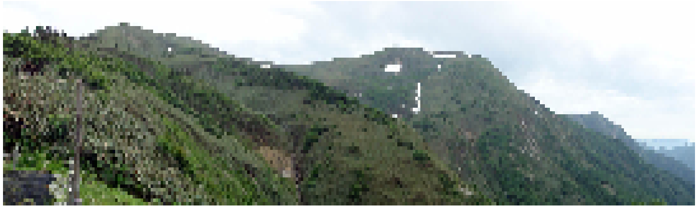
薄曇りの越後湯沢駅は蒸し暑かった。前夜祭用ツールを調達後、宿のお迎えで宿舎へ。登山口までの送迎、下山後の入浴もアリで料金もﾘｰｽﾞﾅﾌﾞﾙで山やにはなかなかグッドな宿でした。

翌朝は6時半に朝食を用意してもらい、その後登山口駐車場まで送ってもらった。

早朝に見えた薄日も消え、ちょっといやらしい雲の塊も見えるが、強い雨は遠慮してもらいたいものだ。駐車場からは以前の別荘地の林道ではなく樹林の中の遊歩道といった趣の道を行く。林道に合流して更に 30 分程で平元新道入口に着く。

整備が行き届いた道で木段になっている所が多い、見通せる場所からは順調に高度を上げているのが分る。前方の空が広くなってくると、平標山の家も近くなり、三国峠へ連なる稜線上の山の家に着くと一気に大展望が広がる。

向かう平標から仙ノ倉の稜線と僅かだが残雪のアクセントもあり良い雰囲気を味わいながら一息入れる、流れっぱなしの水がうまい。



ポツポツと来るが本降りにならない様祈り、稜線を登る。道は木段が延々と続くようになる。が、花のベストシーズンのため、階段や小雨も気にならない？

道々に現れる高山植物たちに存分に癒されながら山頂を目指す。小広い山頂にとび出る。が、そこは冷たい強風が待っていた。それでも展望は確保され、周囲の山々を見ることもできた。特徴ある苗場山は屏風のようである。

風を避けて昼食をとるが、この状況では仙ノ倉へはまともに風との対峙を覚悟することになるので、安全第一の当会は松手山ルートで下山することにした。

この道も木段が多い道だが、吹き上げる強風に足元やバランスの確保に神経を使うことを強いられる。しかしこの道にもお花畑は多く、風に揺れる花たちに慰められる。振り返るたびに頭上に大きくなる平標を感じながら、松手山で展望の名残を楽しんでから、急降下の道が始まる。

高山帯から樹林帯の道に変わり、露岩も目立つようになるが順調に下り、近くで見るとやたらに巨大な送電塔を過ぎ、下界の雰囲気が樹間に感じられるようになってくる。

それでも道々には里山の種類に変わった花々が歩きを楽しくしてくれる。

急な下山路が終わると別荘地のテニスコートの一角に降り立ち、今朝がたのアプローチ道から駐車場へ戻り、迎えのバスで宿舎へ戻った。温泉で汗を流し、ビールで乾杯。往路に比べ、アッという間の新幹線で帰京となった。

花の山をお楽しみいただけましたか？仙ノ倉山残ってるのでまた行けますね。

（記＆写真・涌井　良明）